

インターバンクの声（2015 年 4 月 28 日）

米連邦公開市場委員会（FOMC）や 1－3 月期の米 GDP 発表を控えての週初の海外市場は、ロンドン時間の朝に発表された大手格付会社による日本国債の格付けの引き下げとギリシャが債権団との交渉チームを再編成させたことなどがドル円やユーロ相場の中心材料となった。日本国債格付けの引き下げ決定をした格付会社については、以前からその噂が出ていたことや、見通しが「安定的」に据え置かれたため、極端な円売り反応には至らなかったが、このテーマが深刻化するの是一年後、政府の財政健全化策に行き詰まりが見えた時になるだろう。楽観的な展望と悲観的な展望が交互にやってくるギリシャ支援協議だが、昨夜はギリシャの債権団との交渉チームからバルファキス財務相が外され、代わりにツァカロトス副外相が新たに任命されたことで楽観論が浮上した。選挙前の国民に対する選挙公約があったにせよ、外野から受ける印象では、欧州連合（EU）や国際通貨基金（IMF）との交渉に妥協する部分がほとんど見られなかった財務相が外されたのは、当事者たちにして見ればより楽観的になるのも頷けるが、果たして事が楽観的に進むのかは予断を許さないはずだ。今日は、国内も海外もイベント前の調整日になりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。